

数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル) 申請様式

① 学校名	大阪経済法科大学		
② 大学等の設置者	学校法人大阪経済法律学園	③ 設置形態	私立大学
④ 所在地	大阪府八尾市楽音寺6-10		
⑤ 申請するプログラム名称	数理・データサイエンス・AI教育プログラム		
⑥ プログラムの開設年度	令和3	年度	⑦ 応用基礎レベルの申請の有無
			無
⑧ 教員数	(常勤)	99	人
		(非常勤)	198
			人
⑨ プログラムの授業を教えている教員数		10	人
⑩ 全学部・学科の入学定員	860		人
⑪ 全学部・学科の学生数(学年別)		総数	3,665
			人
1年次	920	人	2年次
			950
			人
3年次	899	人	4年次
			896
			人
5年次		人	6年次
⑫ プログラムの運営責任者			
(責任者名)	呉原 志賢	(役職名)	情報教育運営会議座長
⑬ プログラムを改善・進化させるための体制(委員会・組織等)	情報教育運営会議		
(責任者名)	呉原 志賢	(役職名)	情報教育運営会議座長
⑭ プログラムの自己点検・評価を行う体制(委員会・組織等)	情報教育運営会議		
(責任者名)	呉原 志賢	(役職名)	情報教育運営会議座長
⑮ 申請する認定プログラム	認定教育プログラム		

連絡先

所属部署名	教務課	担当者名	高田 恵一
E-mail	kyoumu@keiho-u.ac.jp	電話番号	072-920-7062

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

本学経済学部の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「データサイエンス基礎」(2単位)(経済学部専門教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件とする。
 ※なお、令和3年度の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「情報リテラシーⅡ」(2単位)(経済学部専門教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件として実施。令和4年度からは、「情報リテラシーⅡ」を「データサイエンス基礎」に名称変更して実施している。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎	4-4時系列データ解析		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-6	AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例「データサイエンス基礎」(第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データ、データ作成(ビッグデータとアノテーション)、データのオープン化「データサイエンス基礎」(第2回)
	1-3	データ・AI活用領域の広がり、サービスなど「データサイエンス基礎」(第1回) 仮説検証、知識発見、原因究明など「データサイエンス基礎」(第4回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析、データ可視化「データサイエンス基礎」(第6回) 非構造化データ処理「データサイエンス基礎」(第13回) 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-5	データサイエンスのサイクル「データサイエンス基礎」(第1回) データ・AI利活用事例紹介「データサイエンス基礎」(第1回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)、AI社会原則、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
	3-2	情報セキュリティ、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、母集団と標本抽出「データサイエンス基礎」(第2回) データの分布と代表値、代表値の性質の違い、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、データのばらつき、観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6,7回) 相関と因果「データサイエンス基礎」(第9回)
	2-2	データ表現「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データの比較、データの図表表現「データサイエンス基礎」(第6,7回) 不適切なグラフ表現「データサイエンス基礎」(第3,7回)
	2-3	データの並び替え、ランキング、データの集計(和、平均)、表形式のデータ「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データ解析ツール「データサイエンス基礎」(第2~15回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

(1) 社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる、(2) データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる、(3) データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる、(4) データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/info-education/>

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

本学経営学部の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「データサイエンス基礎」(2単位)(経営学部専門教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件とする。
 ※なお、令和3年度の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「情報リテラシーⅡ」(2単位)(経営学部専門教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件として実施。令和4年度からは、「情報リテラシーⅡ」を「データサイエンス基礎」に名称変更して実施している。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎	4-4時系列データ解析		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-6	AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例「データサイエンス基礎」(第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データ、データ作成(ビッグデータとアノテーション)、データのオープン化「データサイエンス基礎」(第2回)
	1-3	データ・AI活用領域の広がり、サービスなど「データサイエンス基礎」(第1回) 仮説検証、知識発見、原因究明など「データサイエンス基礎」(第4回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析、データ可視化「データサイエンス基礎」(第6回) 非構造化データ処理「データサイエンス基礎」(第13回) 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-5	データサイエンスのサイクル「データサイエンス基礎」(第1回) データ・AI利活用事例紹介「データサイエンス基礎」(第1回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)、AI社会原則、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
	3-2	情報セキュリティ、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、母集団と標本抽出「データサイエンス基礎」(第2回) データの分布と代表値、代表値の性質の違い、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、データのばらつき、観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6,7回) 相関と因果「データサイエンス基礎」(第9回)
	2-2	データ表現「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データの比較、データの図表表現「データサイエンス基礎」(第6,7回) 不適切なグラフ表現「データサイエンス基礎」(第3,7回)
	2-3	データの並び替え、ランキング、データの集計(和、平均)、表形式のデータ「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データ解析ツール「データサイエンス基礎」(第2~15回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

(1) 社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる、(2) データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる、(3) データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる、(4) データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/info-education/>

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

本学法学部の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、法学部で開講している「データサイエンス基礎」(2単位)(共通教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件とする。
 ※なお、令和3年度の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「情報リテラシーB」(2単位)(共通教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件として実施。令和4年度からは、「情報リテラシーB」を「データサイエンス基礎」に名称変更して実施している。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎	4-4時系列データ解析		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-6	AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例「データサイエンス基礎」(第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データ、データ作成(ビッグデータとアノテーション)、データのオープン化「データサイエンス基礎」(第2回)
	1-3	データ・AI活用領域の広がり、サービスなど「データサイエンス基礎」(第1回) 仮説検証、知識発見、原因究明など「データサイエンス基礎」(第4回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析、データ可視化「データサイエンス基礎」(第6回) 非構造化データ処理「データサイエンス基礎」(第13回) 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-5	データサイエンスのサイクル「データサイエンス基礎」(第1回) データ・AI利活用事例紹介「データサイエンス基礎」(第1回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)、AI社会原則、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
	3-2	情報セキュリティ、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、母集団と標本抽出「データサイエンス基礎」(第2回) データの分布と代表値、代表値の性質の違い、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、データのばらつき、観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6,7回) 相関と因果「データサイエンス基礎」(第9回)
	2-2	データ表現「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データの比較、データの図表表現「データサイエンス基礎」(第6,7回) 不適切なグラフ表現「データサイエンス基礎」(第3,7回)
	2-3	データの並び替え、ランキング、データの集計(和、平均)、表形式のデータ「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データ解析ツール「データサイエンス基礎」(第2~15回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

(1) 社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる、(2) データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる、(3) データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる、(4) データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/info-education/>

プログラムを構成する授業科目について

①具体的な修了要件

②教育プログラムの修了要件

学部・学科によって、修了要件は相違する

本学国際学部の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「データサイエンス基礎」(2単位)(国際学部専門教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件とする。
 ※なお、令和3年度の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」は、「情報リテラシーⅡ」(2単位)(国際学部専門教育科目)を履修し単位を取得することを修了要件として実施。令和4年度からは、「情報リテラシーⅡ」を「データサイエンス基礎」に名称変更して実施している。

③現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-1	1-6
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

④「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-2	1-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑤「様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域（流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等）の知見と組み合わせることで価値を創出するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5	授業科目	単位数	必修	開講状況	1-4	1-5
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑥「活用に当たっての様々な留意事項（ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等）を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2	授業科目	単位数	必修	開講状況	3-1	3-2
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○						

⑦「実データ・実課題（学術データ等を含む）を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの」の内容を含む授業科目

授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3	授業科目	単位数	必修	開講状況	2-1	2-2	2-3
データサイエンス基礎	2	○	一部開講	○	○	○							

⑧選択「4. オプション」の内容を含む授業科目

授業科目	選択項目	授業科目	選択項目
データサイエンス基礎	4-4時系列データ解析		

⑨プログラムを構成する授業の内容

授業に含まれている内容・要素		講義内容
(1)現在進行中の社会変化(第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会等)に深く寄与しているものであり、それが自らの生活と密接に結びついている	1-1	ビッグデータ、IoT、AI、ロボット、データ量の増加、計算機の処理性能の向上、第4次産業革命、Society 5.0、データ駆動型社会、複数技術を組み合わせたAIサービス、データを起点としたものの見方、人間の知的活動を起点としたものの見方「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-6	AI等を活用した新しいビジネスモデル、AI最新技術の活用例「データサイエンス基礎」(第13回)
(2)「社会で活用されているデータ」や「データの活用領域」は非常に広範囲であって、日常生活や社会の課題を解決する有用なツールになり得るもの	1-2	調査データ、実験データ、人の行動ログデータ、機械の稼働ログデータなど、1次データ、2次データ、データのメタ化、構造化データ、非構造化データ、データ作成(ビッグデータとアノテーション)、データのオープン化「データサイエンス基礎」(第2回)
	1-3	データ・AI活用領域の広がり、サービスなど「データサイエンス基礎」(第1回) 仮説検証、知識発見、原因究明など「データサイエンス基礎」(第4回)

(3) 様々なデータ利活用の現場におけるデータ利活用事例が示され、様々な適用領域(流通、製造、金融、サービス、インフラ、公共、ヘルスケア等)の知見と組み合わせることで価値を創出するもの	1-4	データ解析、データ可視化「データサイエンス基礎」(第6回) 非構造化データ処理「データサイエンス基礎」(第13回) 特化型AIと汎用AI、今のAIで出来ることと出来ないこと、AIとビッグデータ「データサイエンス基礎」(第1回)
	1-5	データサイエンスのサイクル「データサイエンス基礎」(第1回) データ・AI利活用事例紹介「データサイエンス基礎」(第1回)
(4) 活用に当たっての様々な留意事項(ELSI、個人情報、データ倫理、AI社会原則等)を考慮し、情報セキュリティや情報漏洩等、データを守る上での留意事項への理解をする	3-1	ELSI(Ethical, Legal and Social Issues)、AI社会原則、データバイアス、アルゴリズムバイアス、AIサービスの責任論、データ・AI活用における負の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
	3-2	情報セキュリティ、パスワード、悪意ある情報搾取、情報漏洩等によるセキュリティ事故の事例紹介「データサイエンス基礎」(第13回)
(5) 実データ・実課題(学術データ等を含む)を用いた演習など、社会での実例を題材として、「データを読む、説明する、扱う」といった数理・データサイエンス・AIの基本的な活用法に関するもの	2-1	データの種類、母集団と標本抽出「データサイエンス基礎」(第2回) データの分布と代表値、代表値の性質の違い、クロス集計表、分割表、相関係数行列、散布図行列、データのばらつき、観測データに含まれる誤差の扱い「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6,7回) 相関と因果「データサイエンス基礎」(第9回)
	2-2	データ表現「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データの比較、データの図表表現「データサイエンス基礎」(第6,7回) 不適切なグラフ表現「データサイエンス基礎」(第3,7回)
	2-3	データの並び替え、ランキング、データの集計(和、平均)、表形式のデータ「データサイエンス基礎」(第3,4,5,6回) データ解析ツール「データサイエンス基礎」(第2~15回)

⑩プログラムの学修成果(学生等が身に付けられる能力等)

(1) 社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる、(2) データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる、(3) データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる、(4) データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。

⑪プログラムの授業内容等を公表しているアドレス

<https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/info-education/>

プログラムの履修者数等の実績について

①プログラム開設年度

令和3

年度

②履修者・修了者の実績

学部・学科名称	入学定員	収容定員	令和3年度		令和2年度		令和元年度		平成30年度		平成29年度		平成28年度		履修者数合計	履修率
			履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数	履修者数	修了者数		
経済学部・経済学科	200	760	102	99											102	13%
経済学部・経営学科	0	160	0	0											0	0%
経営学部・経営学科	200	600	97	94											97	16%
法学部・法律学科	260	1040	97	94											97	9%
国際学部・国際学科	200	680	27	26											27	4%
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
															0	#DIV/0!
合計	860	3240	323	313	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	323	10%

教育の質・履修者数を向上させるための体制・計画について

① プログラムを改善・進化させるための体制を定める規則名称

教務委員会規程

② 体制の目的

各学部DPで掲げる情報活用能力育成に向けて、AI戦略2019を踏まえた初級レベルの数理・データサイエンス・AI教育や、国家試験であるITパスポート準拠の情報教育を実践するため、2019年度に教務委員会のもとに情報教育運営会議を設置。同運営会議のもと、全学的な情報教育の編成・実施、教育内容の点検・評価・改善を行う。

③ 具体的な構成員

情報教育運営会議座長 国際学部長 教授 呉原 志賢
 経済学部 教授 山木 和
 経営学部 教授 津田 博
 経営学部 教授 中川 隆広
 経済学部 准教授 崔 舜星
 教務課 課長 高田 恵一

④ 履修者数・履修率の向上に向けた計画

令和3年度実績	10%	令和4年度予定	35%	令和5年度予定	60%
令和6年度予定	85%	令和7年度予定	100%	収容定員(名)	3,240

具体的な計画

本学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成する「データサイエンス基礎」は、1年次の履修必須の科目(全1年生が履修を指定された科目)としており、全学部の1年生全員が履修する。令和3年度はパイロット的に全学部の一部クラスにて数理・データサイエンス・AI教育プログラムを実施したが、令和4年度からは、「データサイエンス基礎」の全クラスにおいて、同プログラムを実施することで、1年生全員が同プログラムを履修するようにする。以降も毎年度1年生全員が履修するため、4年後の令和7年度には留年生を除く全学生が同プログラムを履修することになる。

⑤ 学部・学科に関係なく希望する学生全員が受講可能となるような必要な体制・取組等

上記④に記載のとおり、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成する「データサイエンス基礎」については、全学部の全ての1年生が履修する制度(履修必須の科目)としている。そのため、全1年生が履修できるクラス数(令和4年度は21科目・クラス)を開講し、担当教員を編成する。

⑥ できる限り多くの学生が履修できるような具体的な周知方法・取組

上記④に記載のとおり、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成する「データサイエンス基礎」については、全学部の全ての1年生が履修する制度(履修必須の科目)であり、1年生には、当該科目を通じて、数理・データサイエンス・AI教育プログラムの意義や概要等について説明し、理解を促す。

⑦ できる限り多くの学生が履修・修得できるようなサポート体制

上記④に記載のとおり、数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成する「データサイエンス基礎」については、全学部の全ての1年生が履修する制度(履修必須の科目)であり、当該科目において、できる限り多くの学生が単位修得(合格)できるように、適切なクラスサイズでの授業実施や、予習・復習で活用できるように本学LMS(WEB)での授業資料の提供、図書館での課題作成のサポート等を実施している。

⑧ 授業時間内外で学習指導、質問を受け付ける具体的な仕組み

数理・データサイエンス・AI教育プログラムを構成する「データサイエンス基礎」では、各クラスに学生サポートスタッフを配備し、授業内で履修学生に学修指導を行う体制を整備している。また、授業の担当教員のメールアドレスを履修学生に伝え、授業外でも質問を受け付け、対応できるようにしている。

自己点検・評価について

① 自己点検・評価体制における意見等

自己点検・評価の視点	自己点検・評価体制における意見・結果・改善に向けた取組等
学内からの視点	
プログラムの履修・修得状況	令和3年度は、一部クラスでプログラムを実施し、結果、全学部1年生の3分の1強となる323名が履修し、うち313名が合格(修得)することとなった。以上の結果と経験を踏まえ、令和4年度からは全学部全1年生を対象にプログラムを実施することで、数理・データサイエンス・AI教育を広く展開する。
学修成果	情報教育運営会議を中心に、プログラムを構成する授業クラス毎の合格率・出席率、秀、優、良、可、不可の割合など、客観的で定量的なデータを用いて学修成果を直接的に把握している。上述のとおり、令和3年度においては、プログラム履修者323名のうち313名が合格し、修得率97%となった。令和4年度においても、継続的な授業改善と丁寧な学修指導を行うことで、高い合格率の維持に努める。

<p>学生アンケート等を通じた 学生の内容の理解度</p>	<p>本学では全科目に対して「授業・学修評価アンケート」を実施している。「この授業を受けて、新しい知識や技能、考え方が身につきましたか」の項目の分析により学生の主観的な理解度を把握している。令和3年度の同プログラム実施クラスの平均は、5点満点中4.5点(回答率78%、標準偏差0.78)であり、学生の主観評価においては高い理解度を確保できたと評価できる。また、自由記述欄においても、「いろんな技術を取得することができました。」、「コンピューターに関する技能を身につけることは現代社会において非常に重要である。」などの意見があった。</p>
<p>学生アンケート等を通じた 後輩等他の学生への推奨度</p>	<p>本学では全科目に対して「授業・学修評価アンケート」を実施している。「総合的に、この授業に満足していますか」の項目の分析により推奨度を評価している。令和3年度の同プログラム実施クラスの平均は、5点満点中4.4点(回答率78%、標準偏差0.84)であり、学生の主観評価においては他の学生に推奨できる水準に到達していると考えられる。</p>
<p>全学的な履修者数、履修 率向上に向けた計画の達成・進捗状況</p>	<p>上述のとおり、令和3年度は、プログラムを構成する科目(「情報リテラシーⅡ」及び「情報リテラシーB」、令和4年度からは名称変更し、「データサイエンス基礎」)の一部クラスで実施したが、令和4年度からは全学部の1年生全員が履修する「データサイエンス基礎」の全クラスでプログラムを実施する。以降、毎年度全ての1年生が履修し、4年後の令和7年度には留年生を除く全学生が同プログラムを履修する計画である。</p>

学外からの視点	
教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価	<p>本プログラムは令和3年度の秋学期から1年生を対象に実施したため、修了者は令和4年度時点で2年生であり、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価についてはまだ存在しない。今後、卒業生が出た段階で、修了者の進路、活躍状況、企業等の評価等については可能な範囲で把握できるように努めたい。</p>
産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見	<p>教育プログラムを運営、点検、評価、改善する主体である情報教育運営会議の構成員には、企業出身の実務家教員も参加しており、産業界の視点を含めた教育プログラムの内容・手法等に関する意見交換や改善の取り組みを行っている。また、全学的な産業界との意見交換の機会があれば、同プログラムに対する意見を伺うことを検討する。</p>

<p>数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること</p>	<p>プログラムを構成する授業では、最新の内容や身近な事例も扱いつつ、座学だけでなく実際にソフトウェア(Excel等)を操作しデータ処理・分析を実施することで「学ぶ楽しさ」を喚起するような授業を展開している。また、背景となる、Society5.0に向けたAI戦略2019や、IT人材不足の現状(経済産業省のレポート)も説明することで、「意義」を理解させるように努めている。</p>
<p>内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること</p>	<p>全1年生が同プログラム科目を履修することから、全体の合格率・出席率、秀・優・良・可・不可、課題の成績等の定量的なデータ、及び「授業・学修評価アンケート」の分析、学生からの声、科目担当教員の授業改善報告書等の現場教員の声を総合して、情報教育運営会議において、毎学期、授業の総括を行い、学修目標を落とすことなく、分かりやすい授業となるよう努めている。令和3年度は全学部の一部のクラスに対して同プログラムを実施したが、合格率は97%を超えることができた。令和4年度においても引き続き内容・水準を維持・向上させつつ、より「分かりやすい授業」とするため、令和3年度に用意したデータ処理・分析の動画教材(事前事後学修で利用可能)をさらに充実させる等の授業改善の取り組みを進める。</p>

②自己点検・評価体制における意見等を公表しているアドレス

<https://www.keiho-u.ac.jp/faculty/info-education/>

科目名	情報リテラシーⅡ			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	山木 和			配当年次	1			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください https://www.keiho-u.ac.jp/life/study/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	G1							
科目区分	経済学部専門教育科目							
テーマ	基本的な数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得							
授業の目的及び概要	<p>・春学期開講の「情報リテラシー」の後続科目です。本科目は、数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得を目的とする科目です。</p> <p>・本科目は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」に準拠しています。</p> <p>・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。「実学としての経済学」に関する力を育成する上でも数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは必須の能力と言えます。</p> <p>・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーの修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組み、必要な能力を修得します。</p>							
履修の条件・注意	-							
DPとの関連	<p>本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。</p> <p>経済学部経済学科DP2. 国際経済、都市経済、現代日本経済といった専門分野に関する深い知識を修得するとともに、グローバル経済と日本経済における諸課題を理解し、解決策を提案する能力を身につけている。</p> <p>経済学部経済学科DP4. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び外国語能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。</p>							
学修の到達目標	<p>本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる。 ・データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる。 ・データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる。 ・データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各テストに関しては、受験後、即採点結果がフィードバックされ、内容についても解説します。 ・PCを用いた実技・実習科目ですので、適時学生の質問に答えしていきます。 							
アクティブ・ラーニングの取り組み	実習、フィールドワーク、学外見学/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	<p>「学生のためのデータリテラシー」、ISBN-13: 978-4-86510-446-2, FOM出版, 2020.</p> <p>テキストは必ず購入して下さい。その他、「社会におけるデータ・AI利用」や「データ・AI活用における留意事項」等に関する資料を適時配布します。</p>							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾 豊「人工知能は人間を超えるか」ISBN-13: 978-4040800202, KADOKAWA, 2015. ・独立行政法人情報処理推進機構 AI白書編集委員会(編集)「AI白書 2020」, ISBN-13: 978-4049110340 KADOKAWA, 2020 							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取り組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	25	レポートなど授業外課題(%)	25	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	最終実技試験(レポート形式)		40
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、P検3級試験に合格(「入社時に要求されるICT活用スキル」の修得)することが可能です。「ストーリー演習」の課題に提出すること、テキストとプリント教材で復習することが肝要です。 ・春学期にタイピング、ワープロ、表計算の各試験に不合格だった学生は、秋学期の期間で復習・再試験の機会を設けます。その機会を活用して、これらのスキル修得を目指してください。 ・本科目は習熟度別クラス編成(標準クラスと上級クラス)となっています。これらクラス間における公正な成績評価を実施するためのグレードに関する規定等の詳細については、情報リテラシーIでも説明しましたが、本科目でも第1回目のガイダンスにて再度説明します。 							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	<p>春学期までの学修到達度に応じて、習熟度別にクラスを編成します。授業計画は一例です。</p> <p>■授業内容</p> <p>1) ガイダンス</p> <p>2) AI戦略2019、Society 5.0、社会におけるデータ・AI利用(1)</p> <p>3) 第1章 データ活用と必要なスキル</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第1章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第1章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間

第2回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(2)</p> <p>2) 第2章 データの準備とデータのタイプ</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第2章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第2章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第3回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(3)</p> <p>2) 第3章 アンケートデータを要約しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第3章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第4回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(4)</p> <p>2) 第4章 質的変数の分析へ</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第4章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第4章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第5回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(5)</p> <p>2) 第5章 量的変数を代表値で要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(5)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第5章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第6回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(6)</p> <p>2) 第6章 量的変数をばらつきで要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(6)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第6章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第7回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(7)</p> <p>2) 第7章 平均と標準偏差を活用しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第7章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(7)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第7章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第8回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(8)</p> <p>2) 第8章 量的データを比較する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(8)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第8章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第9回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第9章 平均値の比較をアイデア評価に応用する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第9章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第9章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第10回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第10章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第10章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第11回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(3)</p> <p>2) 第11章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第11章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第12回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(4)</p> <p>2) 第12章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第12章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第12章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第13回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第13章 時系列データを分析しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第13章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第13章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第14回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第14章 データ分析を活用するために知っておきたいポイント</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第14章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第14章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第15回	<p>■授業内容</p> <p>まとめ</p>	<p>○事前・事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの内容について復習して下さい。 	4時間

科目名	情報リテラシーⅡ		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	崔 舜星		配当年次	1				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください https://www.keiho-u.ac.jp/life/study/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	G1							
科目区分	経営学部専門教育科目							
テーマ	基本的な数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得							
授業の目的及び概要	<p>・春学期開講の「情報リテラシー」の後続科目です。本科目は、数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得を目的とする科目です。</p> <p>・本科目は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」に準拠しています。</p> <p>・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。現代ビジネスの諸課題に取り組む上でも数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは必須の能力と言えます。</p> <p>・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーの修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組み、必要な能力を修得します。</p>							
履修の条件・注意	-							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 経営学部経営学DP2. 情報活用能力、数的処理能力、日本語及び英語運用能力、コミュニケーション能力とともに幅広い教養及び国際感覚を身につけている。							
学修の到達目標	<p>本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる。 ・データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる。 ・データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる。 ・データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各テストに関しては、受験後、即採点結果がフィードバックされ、内容についても解説します。 ・PCを用いた実技・実習科目ですので、適時学生の質問に答えしていきます。 							
アクティブ・ラーニングの取組み	実習、フィールドワーク、学外見学/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	「学生のためのデータリテラシー」、ISBN-13: 978-4-86510-446-2, FOM出版, 2020. テキストは必ず購入して下さい。その他、「社会におけるデータ・AI利用」や「データ・AI利活用における留意事項」等に関する資料を適時配布します。							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾 豊「人工知能は人間を超えるか」ISBN-13: 978-4040800202, KADOKAWA, 2015. ・独立行政法人情報処理推進機構 AI白書編集委員会(編集)「AI白書 2020」, ISBN-13: 978-4049110340 KADOKAWA, 2020 							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	25	レポートなど授業外課題(%)	25	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	最終実技試験(レポート形式)		40
この科目の履修にあたって	<p>・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、P検3級試験に合格(「入社時に要求されるICT活用スキル」の修得)することが可能です。「ストーリー演習」の課題に提出すること、テキストとプリント教材で復習することが肝要です。</p> <p>・春学期にタイピング、ワープロ、表計算の各試験に不合格だった学生は、秋学期の期間で復習・再試験の機会を設けます。その機会を活用して、これらのスキル修得を目指してください。</p> <p>・本科目は習熟度別クラス編成(標準クラスと上級クラス)となっています。これらクラス間における公正な成績評価を実施するためのグレードに関する規定等の詳細については、情報リテラシーIでも説明しましたが、本科目でも第1回目のガイダンスにて再度説明します。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	春学期までの学修到達度に応じて、習熟度別にクラスを編成します。授業計画は一例です。 ■授業内容 1)ガイダンス 2)AI戦略2019, Society 5.0, 社会におけるデータ・AI利用(1) 3)第1章 データ活用と必要なスキル	○事前学修 ・テキスト第1章を事前に読んでください。 ○事後学修 ・テキスト第1章についての実技課題を完成させ提出してください。	4時間
第2回	■授業内容 1)社会におけるデータ・AI利用(2) 2)第2章 データの準備とデータのタイプ	○事前学修 ・テキスト第2章を事前に読んでください。 ○事後学修 ・社会におけるデータ・AI利用(2)に関する資料を再読み、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第2章についての実技課題を完成させ提出してください。	4時間

第3回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(3)</p> <p>2) 第3章 アンケートデータを要約しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第3章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第4回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(4)</p> <p>2) 第4章 質的変数の分析へ</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第4章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第4章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第5回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(5)</p> <p>2) 第5章 量的変数を代表値で要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(5)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第5章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第6回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(6)</p> <p>2) 第6章 量的変数をばらつきで要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(6)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第6章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第7回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(7)</p> <p>2) 第7章 平均と標準偏差を活用しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第7章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(7)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第7章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第8回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(8)</p> <p>2) 第8章 量的データを比較する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(8)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第8章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第9回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第9章 平均値の比較をアイデア評価に応用する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第9章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第9章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第10回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第10章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第10章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第11回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(3)</p> <p>2) 第11章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第11章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第12回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(4)</p> <p>2) 第12章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第12章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第12章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第13回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第13章 時系列データを分析しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第13章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第13章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第14回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第14章 データ分析を活用するために知っておきたいポイント</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第14章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第14章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第15回	<p>■授業内容</p> <p>まとめ</p>	<p>○事前・事後学修</p> <p>これまでの内容について復習して下さい。</p>	4時間

科目名	情報リテラシーB			開講年度	2021年度秋学期			
担当者	山木 和			配当年次	1			
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください https://www.keiho-u.ac.jp/life/study/numbering.html			単位数	2単位			
				授業形態(方法)	講義			
グレード	G1							
科目区分	共通教育科目							
テーマ	基本的な数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得							
授業の目的及び概要	<ul style="list-style-type: none"> ・春学期開講の「情報リテラシーA」の後続科目です。本科目は、数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得を目的とする科目です。 ・本科目は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」に準拠しています。 ・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。 ・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーの修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組み、必要な能力を修得します。 							
履修の条件・注意	履修指定科目							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 法学部法律学科DP4.論理的な思考力と豊かな表現力とともに幅広い教養および実践感覚を身につけている。							
学修の到達目標	<p>本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる。 ・データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる。 ・データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる。 ・データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各テストに関しては、受験後、即採点結果がフィードバックされ、内容についても解説します。 ・PCを用いた実技・実習科目ですので、適時学生の質問に答えていきます。 							
アクティブ・ラーニングの取り組み	実習、フィールドワーク、学外見学/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	<p>「学生のためのデータリテラシー」、ISBN-13：978-4-86510-446-2、FOM出版、2020。 テキストは必ず購入して下さい。その他、「社会におけるデータ・AI利用」や「データ・AI利活用における留意事項」等に関する資料を適時配布します。</p>							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾 豊「人工知能は人間を超えるか」ISBN-13：978-4040800202、KADOKAWA、2015。 ・独立行政法人情報処理推進機構 AI白書編集委員会(編集)「AI白書 2020」、ISBN-13：978-4049110340 KADOKAWA、2020 							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取り組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	25	レポートなど授業外課題(%)	25	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	最終実技試験(レポート形式)		40
この科目の履修にあたって	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、P検3級試験に合格(「入社時に要求されるICT活用スキル」の修得)することが可能です。「ストーリー演習」の課題に提出すること、テキストとプリント教材で復習することが肝要です。 ・春学期にタイピング、ワープロ、表計算の各試験に不合格だった学生は、秋学期の期間で復習・再試験の機会を設けます。その機会を活用して、これらのスキル修得を目指してください。 ・本科目は習熟度別クラス編成(標準クラスと上級クラス)となっています。これらクラス間における公正な成績評価を実施するためのグレードに関する規定等の詳細については、情報リテラシーAでも説明しましたが、本科目でも第1回目のガイダンスにて再度説明します。 							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。 <アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	春学期までの学修到達度に応じて、習熟度別にクラスを編成します。授業計画は一例です。 ■授業内容 1)ガイダンス 2)AI戦略2019、Society 5.0、社会におけるデータ・AI利用(1) 3)第1章 データ活用と必要なスキル	○事前学修 ・テキスト第1章を事前に読んでください。 ○事後学修 ・テキスト第1章についての実技課題を完成させ提出してください。	4時間
第2回	■授業内容 1)社会におけるデータ・AI利用(2) 2)第2章 データの準備とデータのタイプ	○事前学修 ・テキスト第2章を事前に読んでください。 ○事後学修 ・社会におけるデータ・AI利用(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第2章についての実技課題を完成させ提出してください。	4時間

第3回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(3)</p> <p>2) 第3章 アンケートデータを要約しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第3章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第4回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(4)</p> <p>2) 第4章 質的変数の分析へ</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第4章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第4章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第5回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(5)</p> <p>2) 第5章 量的変数を代表値で要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(5)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第5章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第6回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(6)</p> <p>2) 第6章 量的変数をばらつきで要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(6)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第6章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第7回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(7)</p> <p>2) 第7章 平均と標準偏差を活用しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第7章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(7)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第7章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第8回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(8)</p> <p>2) 第8章 量的データを比較する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(8)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第8章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第9回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第9章 平均値の比較をアイデア評価に応用する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第9章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第9章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第10回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第10章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第10章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第11回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(3)</p> <p>2) 第11章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第11章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第12回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(4)</p> <p>2) 第12章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第12章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第12章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第13回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第13章 時系列データを分析しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第13章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第13章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第14回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第14章 データ分析を活用するために知っておきたいポイント</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第14章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第14章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第15回	<p>■授業内容</p> <p>まとめ</p>	<p>○事前・事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの内容について復習して下さい。 	4時間

科目名	情報リテラシーⅡ		開講年度	2021年度秋学期				
担当者	岩見 真希		配当年次	1234				
科目ナンバリング	科目ナンバリングは下記を参照してください https://www.keiho-u.ac.jp/life/study/numbering.html		単位数	2単位				
			授業形態(方法)	講義				
グレード	G1							
科目区分	国際学部専門教育科目							
テーマ	基本的な数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得							
授業の目的及び概要	<p>・春学期開講の「情報リテラシー」の後続科目です。本科目は、数理・データサイエンス・AIに関する知識と能力の修得を目的とする科目です。</p> <p>・本科目は「数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)モデルカリキュラム」に準拠しています。</p> <p>・数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは、「Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえます。「国際理解力」、「国際コミュニケーション力」、「国際ビジネス力」を育成する上で数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーは必須の能力と言えます。</p> <p>・本科目では、このような数理・データサイエンス・AIに関するリテラシーの修得に向けて、各オフィスソフトを操作しながら課題に取り組み、必要な能力を修得します。</p>							
履修の条件・注意	-							
DPとの関連	本科目は、以下の学位授与の方針(DP)と関連した科目です。 国際学部国際学科DP 2. 英語を中心として、国際コミュニケーションに必要なコミュニケーションのツールとスキルを活用する能力を修得している。							
学修の到達目標	<p>本科目の到達目標は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の修得です。具体的には以下の項目を到達目標とします。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる。 ・データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる。 ・データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる。 ・データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる。 							
授業の方法	この科目は対面授業で行われます。なお、今後の新型コロナウイルスの感染状況等により授業方法が途中で変更となる場合があります。							
フィードバックの方法	<ul style="list-style-type: none"> ・各テストに関しては、受験後、即採点結果がフィードバックされ、内容についても解説します。 ・PCを用いた実技・実習科目ですので、適時学生の質問に答えしていきます。 							
アクティブ・ラーニングの取組み	実習、フィールドワーク、学外見学/PCを用いた実技							
実務経験のある教員による授業科目								
テキスト	「学生のためのデータリテラシー」、ISBN-13: 978-4-86510-446-2, FOM出版, 2020. テキストは必ず購入して下さい。その他、「社会におけるデータ・AI利用」や「データ・AI活用における留意事項」等に関する資料を適時配布します。							
参考書	<ul style="list-style-type: none"> ・松尾 豊「人工知能は人間を超えるか」ISBN-13: 978-4040800202, KADOKAWA, 2015. ・独立行政法人情報処理推進機構 AI白書編集委員会(編集)「AI白書 2020」, ISBN-13: 978-4049110340 KADOKAWA, 2020 							
成績評価の方法・基準	積極的な参加度・取組み(%)	10	小テスト・理解度テストなど(%)	25	レポートなど授業外課題(%)	25	中間試験(%)	0
	レポート試験(%)	0	定期試験(%)	0	その他(%)	最終実技試験(レポート形式)		40
この科目の履修にあたって	<p>・毎回の授業に出席し、課題に取り組み、P検3級試験に合格(「入社時に要求されるICT活用スキル」の修得)することが可能です。「ストーリー演習」の課題に提出すること、テキストとプリント教材で復習することが肝要です。</p> <p>・春学期にタイピング、ワープロ、表計算の各試験に不合格だった学生は、秋学期の期間で復習・再試験の機会を設けます。その機会を活用して、これらのスキル修得を目指してください。</p> <p>・本科目は習熟度別クラス編成(標準クラスと上級クラス)となっています。これらクラス間における公正な成績評価を実施するためのグレードに関する規定等の詳細については、情報リテラシーIでも説明しましたが、本科目でも第1回目のガイダンスにて再度説明します。</p>							
オフィスアワー	<p>各教員のオフィスアワー受付曜日・時間・場所については、本学Webサイトの「オフィスアワー」ページに掲載しています。</p> <p><アクセス方法> 大学Webサイトの[トップページ]→[キャンパスライフ]→[教務情報]→[オフィスアワー] <URL> http://www.keiho-u.ac.jp/campuslife/affairs/officehour.html</p> <p>授業の内容や学習上の問題などについて質問や相談を行いたい場合は、実施曜日・時限を確認のうえ実施場所を訪れてください。 ※なお、非専任講師については、担当授業前、終了後の教室や講師控室等での質問、相談を受け付けています。</p>							

授業回	授業計画	事前事後学修(予習・復習等)	事前事後の学修時間
第1回	春学期までの学修到達度に応じて、習熟度別にクラスを編成します。授業計画は一例です。 ■授業内容 1) ガイダンス 2) AI戦略2019, Society 5.0, 社会におけるデータ・AI利用(1) 3) 第1章 データ活用と必要なスキル	○事前学修 ・テキスト第1章を事前に読んでください。 ○事後学修 ・テキスト第1章についての実技課題を完成させ提出してください。	4時間
第2回	■授業内容 1) 社会におけるデータ・AI利用(2) 2) 第2章 データの準備とデータのタイプ	○事前学修 ・テキスト第2章を事前に読んでください。 ○事後学修 ・社会におけるデータ・AI利用(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第2章についての実技課題を完成させ提出してください。	4時間

第3回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(3)</p> <p>2) 第3章 アンケートデータを要約しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第3章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第3章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第4回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(4)</p> <p>2) 第4章 質的変数の分析へ</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第4章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第4章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第5回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(5)</p> <p>2) 第5章 量的変数を代表値で要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第5章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(5)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第5章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第6回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(6)</p> <p>2) 第6章 量的変数をばらつきで要約する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第6章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(6)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第6章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第7回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(7)</p> <p>2) 第7章 平均と標準偏差を活用しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第7章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(7)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第7章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第8回	<p>■授業内容</p> <p>1) 社会におけるデータ・AI利用(8)</p> <p>2) 第8章 量的データを比較する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第8章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会におけるデータ・AI利用(8)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第8章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第9回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第9章 平均値の比較をアイデア評価に応用する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第9章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第9章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第10回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第10章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第10章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第10章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第11回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(3)</p> <p>2) 第11章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第11章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(3)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第11章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第12回	<p>■授業内容</p> <p>1) データ・AI活用における留意事項(4)</p> <p>2) 第12章 散布図を活用して関係性を分析する</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第12章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・データ・AI活用における留意事項(4)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第12章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第13回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)</p> <p>2) 第13章 時系列データを分析しよう</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第13章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(1)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第13章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第14回	<p>■授業内容</p> <p>1) 総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)</p> <p>2) 第14章 データ分析を活用するために知っておきたいポイント</p>	<p>○事前学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・テキスト第14章を事前に読んでください。 <p>○事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合：データリテラシー・社会におけるデータ・AI利用・AI活用における留意事項(2)に関する資料を再読し、分からないところは質問して下さい。 ・テキスト第14章についての実技課題を完成させ提出してください。 	4時間
第15回	<p>■授業内容</p> <p>まとめ</p>	<p>○事前・事後学修</p> <ul style="list-style-type: none"> ・これまでの内容について復習して下さい。 	4時間

2021年度 経済学部経済学科・経営学科 時間割(秋学期)

種別	学号	月曜日					火曜日					水曜日					木曜日					金曜日							
		科目名	単位数	担当者	配当年次	教室	科目名	単位数	担当者	配当年次	教室	科目名	単位数	担当者	配当年次	教室	科目名	単位数	担当者	配当年次	教室	科目名	単位数	担当者	配当年次	教室			
1	花岡	管理会計論 <管理会計>/経営・経済	2	引地	2-3-4	A401	情報リテラシーⅡ/経済	2	大島(清)	E1	E202	工業簿記/経営・経済	4	島本	1-2-3-4	A402	木5	アメリカ経済論	2	堀内(伸)	2-3-4	A502	法 民法総論Ⅰ <民法総論(名称変更)>	2	田中(嗣)	2-3-4	A402		
		Practical Business English I <英語>/経営・経済	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	B205	情報リテラシーⅡ/経済	2	山本	E1	E202	演習ⅠB(編入生)	2	方(敏)	E 3	B201	ビジネス統計Ⅱ/経営・経済	2	金(隆)	2-3-4	A402	法 民法総論Ⅱ <民法総論(名称変更)>	2	田中(嗣)	2-3-4	A402			
		債権総論Ⅰ <債権法概論(名称変更)>	2	高田(尚)	2-3-4	A702	初級簿記/経営・経済	2	岡野(彩)	1-2-3-4	A702	火2	共 スポーツ管理論	2	朴(永)	1-2-3-4	A502	中級簿記/経営・経済	4	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅲ <民法総論(名称変更)>	2	小野	1-2-3-4	A701		
		簿記法令概論	2	中久保(実)	2-3	A502	共 英語CⅡ①	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅳ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	
		共 数的処理ⅠB	2	戸田(健)	1-2-3-4	E601	共 英語CⅡ②	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅴ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	
		共 数的処理ⅡB	2	森澤	1-2-3-4	B403	共 英語CⅡ③	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅵ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	
		共 英語CⅡ④	2	C-4	E1	C502	共 英語CⅡ④	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅶ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	
		共 英語CⅡ⑤	2	A-スコット	1-2-3-4	D201	共 英語CⅡ⑤	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅷ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	
		共 日本語表現(留学生)	RYU	1	小南	1-2-3-4	B102	共 英語CⅡ⑥	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅸ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402
		共 基礎体育B	2	金(成)	1-2-3-4	B204	共 英語CⅡ⑦	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅹ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	
共 教職論	2	平坂(美)	E1-2-3-4	B405	共 英語CⅡ⑧	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅺ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
2	花岡	ICT特別演習ⅢB/経済	2	仙波	2-3-4	1001	情報処理Ⅱ<情報処理論 (テクノロジー)/経営・経済	2	津田(博)	2-3-4	505	地域フィールドスタディ	2	植田	1-2-3-4	506	地域経済論	2	山(山)	2-3-4	603	法 民法総論Ⅻ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		経営戦略Ⅰ<経営戦略論 (事業戦略)/経営・経済	2	奥(隆)	2-3-4	603	法 雇用労務法	2	稲谷(隆)	2-3-4	501	法 中国政治論	2	植田	1-2-3-4	501	ICT特別演習ⅠB/経済	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	501	法 民法総論Ⅼ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		法 西洋法制史Ⅱ	2	小宮山	2-3-4	901	法 道徳理論と指導法 <道徳教育の指導法>	2	松岡(清)	E 2-3-4	802	教職	2	植田	1-2-3-4	801	法 民法総論Ⅽ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅽ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		共 英語CⅡ⑨	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅾ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
		共 英語CⅡ⑩	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論Ⅿ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
		共 英語CⅡ⑪	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅰ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
		共 英語CⅡ⑫	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅱ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
		共 英語CⅡ⑬	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅲ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
		共 英語CⅡ⑭	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅴ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
		共 英語CⅡ⑮	2	田中(清)	E1	E1	B202	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A401	基礎簿記B(科目等履修生)	RYU	2	佐藤(大)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅵ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402						
3	花岡	アンチ経済論	2	福井(清)	2-3-4	A402	地域経済	2	南(健)	2-3-4	C401	ヨーロッパ経済論/経済	2	田畑	2-3-4	C402	環境経済論<環境経済学 (理論)/経営・経済>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A201	法 民法総論ⅶ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		マーケティング概論/経営・経済	2	金(隆)	2-3-4	A201	経営管理論Ⅱ/経営・経済	2	岡野(俊)	1-2-3-4	A201	火1	共 国際政治学Ⅱ/法	2	田代	2-3-4	A402	法 民法総論ⅷ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅷ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402		
		原簿記論/経営・経済	2	藤嶋(大)	2-3-4	A501	情報リテラシーⅡ/経済	2	大島(清)	E1	E202	共 文化人類学	2	奥(隆)	1-2-3-4	A702	法 民法総論ⅸ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅸ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		演習ⅠB(経済)	2	藤嶋(大)	E 2	D401	情報リテラシーⅡ/経済	2	大島(清)	E1	E202	共 多文化共生論	2	鎌倉(祥)	2-3-4	C401	法 民法総論ⅹ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅹ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		演習ⅠB(経済)	2	佐藤(伸)	E 2	D402	法 刑法Ⅰ	2	前嶋(正)	2-3-4	A602	共 キヤリア開発B/経済	2	原(達)	E1	A301	法 民法総論ⅺ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅺ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402			
		演習ⅠB(経済)	2	藤嶋(大)	E 2	D403	法 会社法概論	2	小野(洋)	2-3-4	A701	共 日本語Ⅰ(科目等履修生①)	RYU	2	菅(志)	1	B301	法 民法総論ⅻ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅻ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402		
		演習ⅠB(経済)	2	藤嶋(大)	E 2	D404	共 現代社会と日本語	2	浅見	1-2-3-4	A602	共 日本語Ⅰ(科目等履修生②)	RYU	2	菅(志)	1	B301	法 民法総論ⅼ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅼ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402		
		演習ⅠB(経済)	2	藤嶋(大)	E 2	D405	共 現代文化論	2	藤嶋(大)	1-2-3-4	A702	共 日本語Ⅰ(科目等履修生③)	RYU	2	菅(志)	1	B301	法 民法総論ⅽ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅽ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402		
		法 刑法各論(概論)	2	奥(隆)	2-3-4	A701	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D201	共 日本語Ⅰ(科目等履修生④)	RYU	2	菅(志)	1	B301	法 民法総論ⅾ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅾ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402		
		法 行政学Ⅱ	2	佐藤(伸)	2-3-4	A502	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D204	共 日本語Ⅰ(科目等履修生⑤)	RYU	2	菅(志)	1	B301	法 民法総論ⅿ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402	法 民法総論ⅿ <民法総論(名称変更)>	2	藤嶋(好)	1-2-3-4	A402		
共 哲学	2	佐藤(伸)	1-2-3-4	A601	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D303	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ①	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ②	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 日本史	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D203	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ③	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ④	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 論理学	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D302	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑤	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑥	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 文章表現入門	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D202	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑦	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑧	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 文章表現入門	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D301	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑨	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑩	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 文章表現入門	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D201	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑪	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑫	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 数的処理ⅠB	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D301	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑬	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑭	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 数的処理ⅡB	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D201	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑮	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑯	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 英語CⅡ⑰	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D301	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑰	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑱	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 英語CⅡ⑱	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D201	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ⑲	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ⑳	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 英語CⅡ⑳	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D301	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ㉑	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ㉒	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 英語CⅡ㉓	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D201	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ㉓	2	成(成)	1-2-3-4	B203	共 中国語Ⅱ㉔	2	成(成)	1-2-3-4	B204				
共 英語CⅡ㉕	2	若松(隆)	1-2-3-4	A702	共 視覚英語	2	山崎(大)	1	D301	共 トレーニング演習B(柔道)	RYU	2	若林(洋)	1-2-3-4	B405	共 中国語Ⅱ㉕	2	成(成)											

2021年度 国際学部 時間割(秋学期)

種別	科目名	月曜日				火曜日				水曜日				木曜日				金曜日																																			
		単	組	配	教	単	組	配	教	単	組	配	教	単	組	配	教	単	組	配	教																																
1	比較文化論	2	佐々木	2-3-4	C201	安全保障と国際法	2	吉良(信)	2-3-4	C201	国際政治学 I / 国際	2	岡部(友)	1-2-3-4	A601	日本語文章表現 II (留学生)	RYU	2	小南	2-3-4	C201	情報リテラシー II / 国際	C19	2	若見	1	E202	情報リテラシー II / 国際	C22	2	宮崎(祐)	1	E302																				
	アジア史	2	佐	2-3-4	A402	Intensive English W/R II	1	岩男(久)	1	B102	金2	日本語3(国際1年)①	RYU	2	井ノ口	1	B301	情報リテラシー II / 国際	C20	2	宮崎(祐)	1	E302	情報リテラシー II / 国際	C23	2	泉原	1	E402																								
	Intensive English W/R II	2	正田	1	B201	木2	Intensive English W/R II	3	伊藤(美)	1	B104	金2	日本語3(国際1年)②	RYU	2	赤城	1	B302	現代社会と人権	2	金(泰)	1-2-3-4	A602	共 化学と生活	2	藤(徳)	1-2-3-4	A702																									
	Intensive English W/R II	4	土田(智)	1	B103	木2	Intensive English W/R II	5	本多(真)	1	B201	金2	日本語3(国際1年)③	RYU	2	伊藤	1	B303	共 フランス語 II ①	2	金(成)	1-2-3-4	B204	月2	共 中国語 II ①	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	火2																							
	Intensive English W/R II	6	石田(雅)	1	B105	木2	Intensive English W/R II	7	石田(雅)	1	B105	金2	日本語3(国際1年)④	RYU	2	尾崎(有)	1	B304	共 中国語 II ②	2	成(高)	1-2-3-4	B203	月2	共 韓国語 II ③	2	仲島	1-2-3-4	B204																								
	Intensive English L/S II	2	石田(浩)	1	B202	木2	Intensive English L/S II	2	エッセイ M-A	1	D201	金2	日本語3(国際1年)⑤	RYU	2	加藤(有)	1	B305	共 生涯スポーツB(バスケ/テニス)	1	藤(健)	1-2-3-4	B205	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304																							
	Intensive English L/S II	3	H-2L	1	D302	木2	Intensive English L/S II	4	ウヰジ M	1	D302	金2	Exam Prep. II ②	2	三戸	1-2-3-4	B205	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																							
	Intensive English L/S II	3	オムニブラス	1	E402	木2	Intensive English L/S II	6	J-カール	1	D202	金2	Exam Prep. II ③	2	鳥居(真)	1-2-3-4	B105	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																							
	Intensive English L/S II	5	S-リッパ	1	D204	木2	Intensive English L/S II	8	D-E	1	D203	金2	Advanced English W/R I (再履修)	2	本多(真)	2-3-4	B104	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																							
	Intensive English L/S II	7	T-クラブ	1	D301	木2	日本語4(国際1年)①	RYU	2	赤城	1	B301	木2	Exam Prep. IV ①	2	本多(善)	2-3-4	B101	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																						
	日本語3(国際1年)①	RYU	2	伊藤	1	B301	木1	日本語4(国際1年)②	RYU	2	伊藤	1	B302	木2	Exam Prep. IV ②	2	本多(善)	2-3-4	B102	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																					
	日本語3(国際1年)②	RYU	2	内田(元)	1	B302	木1	日本語4(国際1年)③	RYU	2	小谷(真)	1	B303	木2	Exam Prep. IV ③	2	本多(善)	2-3-4	B103	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																					
	日本語3(国際1年)③	RYU	2	橋本(謙)	1	B303	木1	日本語4(国際1年)④	RYU	2	真下	1	B304	木2	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B103	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																					
	日本語3(国際1年)④	RYU	2	小島	1	B304	木1	日本語4(国際1年)⑤	RYU	2	小島	1	B305	木2	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B103	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	佐	1	B304	月1	共 基礎演習B(科目等履修生)	RYU	2	片岡(浩)	1	D304																					
	日本語3(国際1年)⑤	RYU	2	赤城	1	B305	木1	心とからだの病理学	2	下山	1-2-3-4	A601	共 中国語 II ②	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	金2	共 韓国語 II ②	2	仲島	1-2-3-4	B204	金2	共 基礎演習B	1	藤(健)	1	体育館																								
共 日本語表現(留学生)	RYU	1	小南	1-2-3-4	B102	共 中国語 II ②	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	金2	共 基礎演習B	1	藤(健)	1	体育館																																					
共 韓国語 II ①	2	金(成)	1-2-3-4	B204	木2	共 韓国語 II ②	2	仲島	1-2-3-4	B204	金2	共 基礎演習B	1	藤(健)	1	体育館																																					
共 基礎演習B	1	朴(永)	1	体育館																																																	
八尾	ソーシャルメディア論	2	増本(貴)	3-4	508																																																
2	異文化適応論	2	本多(善)	2-3-4	A602	国際政治学 II / 国際	2	張(雪)	2-3-4	A601	日本語文章表現 II	2	小南	2-3-4	C201	世界経済論/国際	2	金子(治)	2-3-4	A502	専門演習 I B	2	高砂	2	D401	国際経済学概論	2	塩谷(昌)	2-3-4	C201	専門演習 I B	2	張(雪)	2	D404																		
	日本語コミュニケーション技法 II	2	伊藤	2-3-4	C201	Multiculturalism in Modern Society	2	ボイキン(舞)	2-3-4	C201	Exam Prep. II ④	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 ことばと文化	2	宋(南)	1-2-3-4	A502	専門演習 I B	2	ボイキン(舞)	2	D403																	
	Exam Prep. II ①	2	土田(智)	1-2-3-4	B103	共 現代社会と日本語	2	浅見	1-2-3-4	A402	Exam Prep. II ⑤	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	4	土田(智)	1	B103	月1	専門演習 I B	2	本多(善)	2	B301	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103							
	共 哲学	2	佐野(倫)	1-2-3-4	A601	共 現代社会と日本語	2	浅見	1-2-3-4	A402	Exam Prep. II ⑥	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103							
	共 日本史	2	岩永(敏)	1-2-3-4	A702	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. II ⑦	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103							
	共 文章表現入門	2	亮太(美)	1	B301	共 日本語 I(科目等履修生)①	RYU	2	伊藤	1	B301	月4	Exam Prep. IV ⑤	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103					
	共 文章表現入門	2	平坂(美)	1	B405	共 日本語 I(科目等履修生)②	RYU	2	小谷(真)	1	B302	月4	Exam Prep. IV ⑥	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103					
	共 文章表現入門	2	浅見	1	B401	共 日本語 I(科目等履修生)③	RYU	2	茶園	1	B303	月4	Exam Prep. IV ⑦	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103					
	共 フランス語 II ①	2	成(高)	1-2-3-4	B204	共 日本語 I(科目等履修生)④	RYU	2	真下	1	B304	月4	Exam Prep. IV ⑧	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103					
	共 中国語 II ③	2	成(高)	1-2-3-4	B204	共 日本語 I(科目等履修生)⑤	RYU	2	真下	1	B304	月4	Exam Prep. IV ⑨	2	鳥居(佳)	1-2-3-4	B105	Intensive English W/R II	2	宗和	1	B102	月1	専門演習 I B	2	金子(治)	2	B303	共 地域文化論	2	姜(信)	1-2-3-4	C301	Exam Prep. IV ④	2	本多(善)	2-3-4	B101	Exam Prep. IV ⑤	2	本多(善)	2-3-4	B102	Exam Prep. IV ⑥	2	本多(善)	2-3-4	B103					
	共 生涯スポーツB(サッカー)	1	朴(永)	1-2-3-4	B203	共 中国語 II ①	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	金1	共 日本語 III(科目等履修生)①	RYU	2	笹谷(志)	1	B301	木3	Intensive English L/S II	3	ウヰジ M	1	D303	月1	専門演習 I B	2	東條(加)	2	D405	共 中国語 II ②	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	金1	共 日本語 III(科目等履修生)②	RYU	2	尾崎(有)	1	B303	木3	Intensive English L/S II	3	ウヰジ M	1	D303	月1	専門演習 I B	2	東條(加)	2	D405
	共 生涯スポーツB(卓球)	1	藤(健)	1-2-3-4	体育館	共 韓国語 II ③	2	仲島	1-2-3-4	B204	金1	共 日本語 III(科目等履修生)③	RYU	2	尾崎(有)	1	B303	木3	Intensive English L/S II	3	ウヰジ M	1	D303	月1	専門演習 I B	2	東條(加)	2	D405	共 中国語 II ②	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	金1	共 日本語 III(科目等履修生)④	RYU	2	尾崎(有)	1	B303	木3	Intensive English L/S II	3	ウヰジ M	1	D303	月1	専門演習 I B	2	東條(加)	2	D405
	共 生涯スポーツB(卓球)	1	藤(健)	1-2-3-4	体育館	共 ロシア語 II	2	山下(文)	1-2-3-4	B401	金2	共 日本語 III(科目等履修生)⑤	RYU	2	加藤(登)	1	B304	木3	Intensive English L/S II	3	ウヰジ M	1	D303	月1	専門演習 I B	2	東條(加)	2	D405	共 中国語 II ②	2	姜(若)	1-2-3-4	B203	金1	共 日本語 III(科目等履修生)⑥	RYU	2	尾崎(有)	1	B303	木3	Intensive English L/S II	3	ウヰジ M	1	D303	月1	専門演習 I B	2	東條(加)	2	D405
	共 生涯スポーツB(卓球)	1	藤(健)	1-2-3-4	体育館	共 フィットネス実習B	1	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館								
	共 生涯スポーツB(卓球)	1	藤(健)	1-2-3-4	体育館	共 フィットネス実習B	1	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館													
共 生涯スポーツB(卓球)	1	藤(健)	1-2-3-4	体育館	共 フィットネス実習B	1	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2	若林(洋)	1-2-3-4	体育館	共 トレーニング演習B(柔道)	2																											

教務委員会規程

第1条 本学に教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、各学部に通ずる教務に関する事項について審議するとともに、相互の連絡調整を行うものとする。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学部長
- (3) 大学教育開発支援センター所長
- (4) 各学部から選出された専任教員各1名
- (5) 事務局長
- (6) 教務課長
- (7) 委員長が指名する者

2 委員長は、必要と認めるときは委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第5条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、教務部長が当たり、委員会を招集し、その議長となる。

第6条 委員会における審議事項は、次のとおりとする。

- (1) 学籍に関する事項
- (2) 履修方法に関する事項
- (3) 定期試験、追試験及び再試験に関する事項
- (4) 卒業等に関する事項
- (5) 転学部に関する事項
- (6) 教育課程の編成に関する事項
- (7) ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する事項
- (8) IR（インスティテューショナル・リサーチ）に関する事項
- (9) 学長から諮問された事項
- (10) その他各学部に通ずる教務事項

第7条 委員会の事務は、教務課がこれを担当する。

第8条 この規程の改廃は、理事会においてこれを行う。

附則

1 この規程は、昭和46年5月1日から実施する。

2 昭和46年度の教務委員は、第3条の規定にかかわらず、現任中の委員をもってあてる。

附則

この規程は、2008年4月1日から施行する。

附則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

附則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

2019年度 第7回 教務委員会 議事録 (案)

■日時 2019年10月2日 (水) 10:00~12:00

■場所 本部棟3階 大会議室

■議題

1. 審議事項

- 1) 2019年度9月学籍異動について
- 2) 学業継続指導について
- 3) 2020年度授業科目のシラバス作成について
- 4) 2020年度時間割編成について
- 5) 定員超過科目の今後の対応について
- 6) 情報教育運営会議の設置について
- 7) 2019年度秋学期授業参観の実施について
- 8) 2019年度秋学期履修登録者3名以下の授業科目の取扱いについて

2. 報告事項

- 1) 2019年度大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」の成績について
- 2) 卒業生・企業アンケート集計結果について
- 3) 2019年度秋学期オフィスアワーについて
- 4) 高等教育の修学支援新制度の説明会の実施について

■出席

中井副学長兼教務部長 (委員長)、高橋経営学部長、大島法学部長、呉原国際学部長、浅見教養部長、朱経済学研究科長、山中事務局長、引地教務部副部長、大場教務部長補佐、崔 (舜) 教務部長補佐 (経済学部教務委員)、菅原教務部長補佐 (国際学部教務委員)、弘田経済学部委員、徳丸経営学部委員、岩崎法学部教務委員、高野法学部教務委員、赤城国際学部教務委員、鈴木 (清) 教養部教務委員、渡邊教養部教務委員、伊澤教養部教務委員、斐国際教育交流センター部長、高田教務課長、斎藤エクステンションセンター事務長、高倉教務課長補佐、平田教務課主任、朴国際教育交流センター主任、山本キャリアセンター主任、藤井教務課主任
山垣経済学部FD委員長 (代理出席)

■欠席

前鶴経済学部長 (校務)

■議事

高田教務課長より、2019年度第6回教務委員会議事録 (案) の朗読があり、了承された。

1. 審議事項

- (1) 2019年度9月学籍異動について

高田教務課長から、資料に基づき、2019年度9月学籍異動について報告があり、審議の結果、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

- (2) 学業継続指導について

藤井教務課主任から、資料に基づき、①9月除籍退学率の現状、②9月の学業継続指導の取組み、③除籍退学の見込み (潜在的除退率) について報告が行われた。続いて、今後の対応方策として、①秋学期未履修・多欠席学生への対応、②修学支援措置 (高等教育無償化) に係る修学指導の実施、③10月27日開催の父母懇談会の実施、等を着実にやり、除籍退学率の低下を図りたいとの報告が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会に諮ることが了承された。

- (3) 2020年度授業科目のシラバス作成について

高田教務課長から、資料に基づき、次年度のシラバスの作成にあたり、改めてシラバスの意義・役割、今年度のシラバスの評価と課題について報告が行われた。

引き続き、2020年度シラバス作成にあたっての基本的考え方として、①シラバスガイドラインに基づく記載内容の充実と適切化、②共通のシラバスガイドラインに加え、学部独自のガイドラ

イン補足資料の作成、③学生への早期公開のため、シラバス作成と検証の日程を早期化することについて説明が行われ、「2020年度シラバス作成のためのガイドライン案」について、変更内容や記載上の重要事項等の報告が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

(4) 2020年度時間割編成について

高田教務課長から、資料に基づき、2020年度時間割編成について報告が行われた。報告では、2020年度時間割編成の基本的な考え方が説明され、今後、各学部・教養部より選出された担当者や教務課職員で構成する「時間割編成ワーキンググループ」のもとで、編成上の基本ルールの策定や時間割の作成・検収・確認作業などを実施し、学生本位の適切な時間割の編成作業を行うことについて説明が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

(5) 定員超過科目の今後の対応について

中井副学長兼教務部長から、資料に基づき、履修希望者が履修設定人数を超えている科目について、次年度に向けた対応（開講曜限の変更、レポート科目の設定、履修設定人数の変更等）を検討する必要があることについて説明が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会に諮ることが了承された。

(6) 情報教育運営会議の設置について

崔教務部長補佐（情報教育運営会議座長）から、資料に基づき、政府のAI戦略等を踏まえ、各学部 DP に掲げる情報活用能力の育成に向けて、新たな情報教育のカリキュラムや授業内容の改善・策定を行うため、教務委員会の下に情報教育運営会議を設置することについて報告が行われ、了承された。

(7) 2019年度秋学期授業参観の実施について

高田教務課長から、資料に基づき、教員同士の授業方法・内容に関する相互検証の機会として、2019年度秋学期の授業参観を実施することが提案され、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

(8) 2019年度秋学期履修登録者3名以下の授業科目の取扱いについて

高倉教務課長補佐から、資料に基づき、2019年度秋学期履修登録者3名以下の授業科目の取扱について報告があり、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

2. 報告事項

(1) 2019年度大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」の成績について

高倉教務課長補佐から、資料に基づき、2019年度大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」の成績について報告が行われた。

(2) 卒業生・企業アンケート集計結果について

山本キャリアセンター主任から、資料に基づき、卒業生・企業アンケート集計結果について報告が行われた。

(3) 2019年度秋学期オフィスアワーについて

高田教務課長から、資料に基づき、2019年度秋学期オフィスアワーの実施について報告が行われた。

(4) 高等教育の修学支援新制度の説明会の実施について

高田教務課長から、資料に基づき、高等教育の修学支援新制度の説明会の実施について報告が行われた。

以上

2019年10月2日（水）

教務委員会

情報教育運営会議の設置について

1. 情報教育運営会議設置趣旨

第4次産業革命実現に向けた国際的な潮流が、政治・経済への影響、ビジネスの変革をもたらしている。AI・ロボットにより代替可能な職業についての予測が発表され、10年後の大学生の65%は大学卒業時に現在存在していない職業に就くという主張もなされている。これからの卒業生は変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代（VUCA）を22世紀まで生き抜いていく必要があり、大学教育も大きな転換期を迎えている。

本学情報教育においても刷新が求められており、各学部 DP で掲げる情報活用能力育成に向けて、新たな方針・カリキュラム・授業内容の検討・策定を行う必要がある。全学生が履修する情報リテラシー科目において「入社時に要求される ICT 活用スキル」を育成しつつ、入学者の質的向上、近年の初等・中等教育での情報教育改革、AI 戦略2019を踏まえた、初級レベルのデータサイエンス・AI 教育や、国家試験である IT パスポート準拠の情報ネットワーク及び情報セキュリティ教育を実践する必要がある。また、各学部特性を踏まえ、学生のキャリア目標に合わせた情報系科目を設置し、情報系資格と対応させながら教育を実践していく必要がある。2021年度には、民間試験の P 検（ICT プロフィエンス検定）合格者500名以上及び MOS（Microsoft Office Specialist）合格者500名以上を維持しながら、国家試験の IT パスポート合格者50名以上、基本情報技術者試験又は情報セキュリティマネジメント試験合格者10名以上、応用情報技術者試験合格5名以上を達成することを目標とする。

これら目標達成のため、教務委員会の下に情報教育運営会議を設置する。特色ある中堅大学に相応しい情報教育の出発点となるよう、本会議を進めていきたい。

2. 情報教育運営会議構成員

顧問：原辺 隆吉 学校法人大阪経済法律学園理事

座長：崔 舜星 教務部長補佐・経済学部准教授

呉原 志賢 国際学部長・国際学部教授

山木 和 情報科学センター長代理・教養部 FD 委員長・教養部教授

高田 恵一 教務課長・情報科学センター事務長

平田 良作 教務課主任

3. 年度目標と取組（案）

年度	目標と取組
2019年	① 情報リテラシーII/B アドバンスプログラムクラスにおいて、初級レベルのデータサイエンス・AI教育の一部を実施（ITパスポートへの対応） ② 2020年度情報リテラシー科目（1年次）の改善案の策定（～12月） ③ ITパスポート関連科目の方針・カリキュラム決定とITパスポート合格者拡大に向けた方針の策定（～12月） ④ 情報教育新カリキュラムの策定に向けた検討→経済学部新コースとの調整 ⑤ 各種調査の実施
	資格目標 ・ITパスポート合格者：20名
2020年	① 情報リテラシー科目の改善開始（4月～）情報リテラシー（全クラス、主にB/II）において、初級レベルのデータサイエンス・AI教育を実施（ITパスポートへの対応） ② ITパスポート関連科目の改善開始（4月～） ③ 各学部の情報教育新カリキュラム案（科目・シラバス方向性・担当者）決定（9月頃） ④ 情報セキュリティマネジメント及び基本情報技術者試験への対応
	資格目標 ・ITパスポート合格者：40名 ・基本情報技術者試験もしくは情報セキュリティマネジメント試験合格：3名
2021年	① 情報教育新カリキュラムの開始（※経営学部は要AC期間対応） ② 応用情報技術者試験への対応 → ICT特別演習、資格講座
	資格目標 ・ITパスポート合格者：50名 ・基本情報技術者試験もしくは情報セキュリティマネジメント試験合格：10名 ・応用情報技術者試験合格：5名
2022年	① 情報教育新カリキュラムの部分的改善 ② 経営学部AC期間終了年度
	資格目標 ・ITパスポート合格者：50名 ・基本情報技術者試験もしくは情報セキュリティマネジメント試験合格：10名 ・応用情報技術者試験合格：5名

以上

2022 年度第 1 回情報教育運営会議議事録

日 時：2022 年 4 月 25 日（月）16 時～17 時 30 分

場 所：花岡キャンパス本部棟 2F 中会議室 1

出 席：呉原 志賢（座長、国際学部長、国際学部教授）、原辺 隆吉（顧問、学校法人大阪経済法律学園理事）、山木 和（情報科学センター長代理、経済学部教授）、津田博（経営学部教授）、中川 隆広（経営学部教授）、崔 舜星（IR 室長代理、教務部長補佐、経済学部准教授）、高田 恵一（教務課長、情報科学センター事務長）

1. 開会・前回議事録の確認

2021 年度第 5 回情報教育運営会議（2021 年 3 月 1 日（火）開催）議事録が了承された。

2. 2022 年度情報教育運営会議の目的及び構成員について

呉原座長から、資料に基づき、情報教育運営会議の目的についての報告があり、同会議において、各学部 DP で掲げる情報活用能力育成に向けて、AI 戦略 2019 を踏まえた数理・データサイエンス・AI 教育プログラムや、国家試験である IT パスポートに準拠した情報教育など、本学の情報教育の編成・実施、点検、評価、改善を担うこと、特に数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを改善・進化させるための取組みを行うとともに、同プログラムの自己点検・評価を行い、同プログラムの質保証に努めることが確認された。

続いて、2022 年度の情報教育運営会議の構成員について報告があり、確認された。

3. 事業計画達成に向けた今年度の取組について

呉原座長から、資料に基づき、事業計画達成に向けた今年度の取組について提案があった。提案において、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に対応した「データサイエンス基礎」の具体的な授業内容が示された。また、国家資格である IT パスポート試験の合格者 100 名（中期目標）の実現に向けて、同試験に対応する講義科目、各対応演習等での個別指導、課外の資格講座等、2022 年度に合格者 50 名を実現するための具体的取組みが示された。くわえて、国家試験である基本情報技術者試験又は情報セキュリティマネジメント試験 10 名以上、応用情報技術者試験 5 名以上、民間試験の MOS（Microsoft Office Specialist）試験 500 名以上の合格の実現に向けて、対応科目の FD を進めることが提案された。種々意見交換の後、了承された。

4. 情報系科目の実施状況について

呉原座長から、資料に基づき、2022 年度情報系科目の実施状況について報告があった。報告において、履修ガイダンス及び指導に基づき、多くの学生が情報教育科目を履修していることが示され、各科目の位置づけや授業計画に基づいて適切に運営されるように、中間点検・評価及び総括を行うことが確認された。

5. 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請について

崔准教授（IR 室長代理、教務部長補佐）より、資料に基づき、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請について報告があり、申請要領及び申請書類案が示された。引き続き、申請書類の作成・点検を行い、学内手続きを経て、期日（2022年5月20日（金）17時）までに申請できるように進めることが確認された。

以上

2022年4月25日
情報教育運営会議座長 呉原 志賢

2022年度情報教育運営会議の目的及び構成員について

1. 情報教育運営会議の目的

情報教育運営会議は、各学部 DP で掲げる情報活用能力育成に向けて、AI 戦略 2019 を踏まえた数理・データサイエンス・AI 教育プログラムや、国家試験である IT パスポートに準拠した情報教育など、本学の情報教育の編成・実施、点検、評価、改善を担う。

特に、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを改善・進化させるための取組みを行うとともに、同プログラムの自己点検・評価を行い、同プログラムの質保証に努める。

2. 2022年度情報教育運営会議の構成員について

呉原 志賢（座長、国際学部長、国際学部教授）

原辺 隆吉（顧問、学校法人大阪経済法律学園理事）

山木 和（情報科学センター長代理、経済学部教授）

津田 博（経営学部教授）

中川 隆広（経営学部教授）

崔 舜星（IR 室長代理、教務部長補佐、経済学部准教授）

高田 恵一（教務課長、情報科学センター事務長）

以上

教務委員会規程

第1条 本学に教務委員会（以下「委員会」という。）を置く。

第2条 委員会は、各学部に通ずる教務に関する事項について審議するとともに、相互の連絡調整を行うものとする。

第3条 委員会は、次の各号に掲げる者をもって構成する。

- (1) 教務部長
- (2) 各学部長
- (3) 大学教育開発支援センター所長
- (4) 各学部から選出された専任教員各1名
- (5) 事務局長
- (6) 教務課長
- (7) 委員長が指名する者

2 委員長は、必要と認めるときは委員以外の者を出席させ、意見を聴くことができる。

第4条 委員の任期は、2年とする。ただし、再任を妨げない。

第5条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、教務部長が当たり、委員会を招集し、その議長となる。

第6条 委員会における審議事項は、次のとおりとする。

- (1) 学籍に関する事項
- (2) 履修方法に関する事項
- (3) 定期試験、追試験及び再試験に関する事項
- (4) 卒業等に関する事項
- (5) 転学部に関する事項
- (6) 教育課程の編成に関する事項
- (7) ファカルティ・ディベロップメント（FD）に関する事項
- (8) IR（インスティテューショナル・リサーチ）に関する事項
- (9) 学長から諮問された事項
- (10) その他各学部に通ずる教務事項

第7条 委員会の事務は、教務課がこれを担当する。

第8条 この規程の改廃は、理事会においてこれを行う。

附則

1 この規程は、昭和46年5月1日から実施する。

2 昭和46年度の教務委員は、第3条の規定にかかわらず、現任中の委員をもってあてる。

附則

この規程は、2008年4月1日から施行する。

附則

この規程は、2020年4月1日から施行する。

附則

この規程は、2022年4月1日から施行する。

2019年度 第7回 教務委員会 議事録(案)

■日時 2019年10月2日(水) 10:00~12:00

■場所 本部棟3階 大会議室

■議題

1. 審議事項

- 1) 2019年度9月学籍異動について
- 2) 学業継続指導について
- 3) 2020年度授業科目のシラバス作成について
- 4) 2020年度時間割編成について
- 5) 定員超過科目の今後の対応について
- 6) 情報教育運営会議の設置について
- 7) 2019年度秋学期授業参観の実施について
- 8) 2019年度秋学期履修登録者3名以下の授業科目の取扱いについて

2. 報告事項

- 1) 2019年度大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」の成績について
- 2) 卒業生・企業アンケート集計結果について
- 3) 2019年度秋学期オフィスアワーについて
- 4) 高等教育の修学支援新制度の説明会の実施について

■出席

中井副学長兼教務部長(委員長)、高橋経営学部長、大島法学部長、呉原国際学部長、浅見教養部長、朱経済学研究科長、山中事務局長、引地教務部副部長、大場教務部長補佐、崔(舜)教務部長補佐(経済学部教務委員)、菅原教務部長補佐(国際学部教務委員)、弘田経済学部委員、徳丸経営学部委員、岩崎法学部教務委員、高野法学部教務委員、赤城国際学部教務委員、鈴木(清)教養部教務委員、渡邊教養部教務委員、伊澤教養部教務委員、斐国際教育交流センター部長、高田教務課長、斎藤エクステンションセンター事務長、高倉教務課長補佐、平田教務課主任、朴国際教育交流センター主任、山本キャリアセンター主任、藤井教務課主任
山垣経済学部FD委員長(代理出席)

■欠席

前鶴経済学部長(校務)

■議事

高田教務課長より、2019年度第6回教務委員会議事録(案)の朗読があり、了承された。

1. 審議事項

- (1) 2019年度9月学籍異動について

高田教務課長から、資料に基づき、2019年度9月学籍異動について報告があり、審議の結果、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

- (2) 学業継続指導について

藤井教務課主任から、資料に基づき、①9月除籍退学率の現状、②9月の学業継続指導の取組み、③除籍退学の見込み(潜在的除退率)について報告が行われた。続いて、今後の対応方策として、①秋学期未履修・多欠席学生への対応、②修学支援措置(高等教育無償化)に係る修学指導の実施、③10月27日開催の父母懇談会の実施、等を着実にやり、除籍退学率の低下を図りたいとの報告が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会に諮ることが了承された。

- (3) 2020年度授業科目のシラバス作成について

高田教務課長から、資料に基づき、次年度のシラバスの作成にあたり、改めてシラバスの意義・役割、今年度のシラバスの評価と課題について報告が行われた。

引き続き、2020年度シラバス作成にあたっての基本的考え方として、①シラバスガイドラインに基づく記載内容の充実と適切化、②共通のシラバスガイドラインに加え、学部独自のガイドラ

イン補足資料の作成、③学生への早期公開のため、シラバス作成と検証の日程を早期化することについて説明が行われ、「2020年度シラバス作成のためのガイドライン案」について、変更内容や記載上の重要事項等の報告が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

(4) 2020年度時間割編成について

高田教務課長から、資料に基づき、2020年度時間割編成について報告が行われた。報告では、2020年度時間割編成の基本的な考え方が説明され、今後、各学部・教養部より選出された担当者や教務課職員で構成する「時間割編成ワーキンググループ」のもとで、編成上の基本ルールの策定や時間割の作成・検収・確認作業などを実施し、学生本位の適切な時間割の編成作業を行うことについて説明が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

(5) 定員超過科目の今後の対応について

中井副学長兼教務部長から、資料に基づき、履修希望者が履修設定人数を超えている科目について、次年度に向けた対応（開講曜限の変更、レポート科目の設定、履修設定人数の変更等）を検討する必要があることについて説明が行われた。報告を受けて、種々意見交換が行われ、各学部・教養部教授会に諮ることが了承された。

(6) 情報教育運営会議の設置について

崔教務部長補佐（情報教育運営会議座長）から、資料に基づき、政府のAI戦略等を踏まえ、各学部 DP に掲げる情報活用能力の育成に向けて、新たな情報教育のカリキュラムや授業内容の改善・策定を行うため、教務委員会の下に情報教育運営会議を設置することについて報告が行われ、了承された。

(7) 2019年度秋学期授業参観の実施について

高田教務課長から、資料に基づき、教員同士の授業方法・内容に関する相互検証の機会として、2019年度秋学期の授業参観を実施することが提案され、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

(8) 2019年度秋学期履修登録者3名以下の授業科目の取扱いについて

高倉教務課長補佐から、資料に基づき、2019年度秋学期履修登録者3名以下の授業科目の取扱について報告があり、各学部・教養部教授会及び経済学研究科委員会に諮ることが了承された。

2. 報告事項

(1) 2019年度大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」の成績について

高倉教務課長補佐から、資料に基づき、2019年度大学コンソーシアム大阪「単位互換履修生」の成績について報告が行われた。

(2) 卒業生・企業アンケート集計結果について

山本キャリアセンター主任から、資料に基づき、卒業生・企業アンケート集計結果について報告が行われた。

(3) 2019年度秋学期オフィスアワーについて

高田教務課長から、資料に基づき、2019年度秋学期オフィスアワーの実施について報告が行われた。

(4) 高等教育の修学支援新制度の説明会の実施について

高田教務課長から、資料に基づき、高等教育の修学支援新制度の説明会の実施について報告が行われた。

以上

2019年10月2日（水）

教務委員会

情報教育運営会議の設置について

1. 情報教育運営会議設置趣旨

第4次産業革命実現に向けた国際的な潮流が、政治・経済への影響、ビジネスの変革をもたらしている。AI・ロボットにより代替可能な職業についての予測が発表され、10年後の大学生の65%は大学卒業時に現在存在していない職業に就くという主張もなされている。これからの卒業生は変動性、不確実性、複雑性、曖昧性の時代（VUCA）を22世紀まで生き抜いていく必要があり、大学教育も大きな転換期を迎えている。

本学情報教育においても刷新が求められており、各学部 DP で掲げる情報活用能力育成に向けて、新たな方針・カリキュラム・授業内容の検討・策定を行う必要がある。全学生が履修する情報リテラシー科目において「入社時に要求される ICT 活用スキル」を育成しつつ、入学者の質的向上、近年の初等・中等教育での情報教育改革、AI 戦略2019を踏まえた、初級レベルのデータサイエンス・AI 教育や、国家試験である IT パスポート準拠の情報ネットワーク及び情報セキュリティ教育を実践する必要がある。また、各学部特性を踏まえ、学生のキャリア目標に合わせた情報系科目を設置し、情報系資格と対応させながら教育を実践していく必要がある。2021年度には、民間試験の P 検（ICT プロフィエンス検定）合格者500名以上及び MOS（Microsoft Office Specialist）合格者500名以上を維持しながら、国家試験の IT パスポート合格者50名以上、基本情報技術者試験又は情報セキュリティマネジメント試験合格者10名以上、応用情報技術者試験合格5名以上を達成することを目標とする。

これら目標達成のため、教務委員会の下に情報教育運営会議を設置する。特色ある中堅大学に相応しい情報教育の出発点となるよう、本会議を進めていきたい。

2. 情報教育運営会議構成員

顧問：原辺 隆吉 学校法人大阪経済法律学園理事

座長：崔 舜星 教務部長補佐・経済学部准教授

呉原 志賢 国際学部長・国際学部教授

山木 和 情報科学センター長代理・教養部 FD 委員長・教養部教授

高田 恵一 教務課長・情報科学センター事務長

平田 良作 教務課主任

3. 年度目標と取組（案）

年度	目標と取組
2019年	① 情報リテラシーII/B アドバンスプログラムクラスにおいて、初級レベルのデータサイエンス・AI教育の一部を実施（ITパスポートへの対応） ② 2020年度情報リテラシー科目（1年次）の改善案の策定（～12月） ③ ITパスポート関連科目の方針・カリキュラム決定とITパスポート合格者拡大に向けた方針の策定（～12月） ④ 情報教育新カリキュラムの策定に向けた検討→経済学部新コースとの調整 ⑤ 各種調査の実施
	資格目標 ・ITパスポート合格者：20名
2020年	① 情報リテラシー科目の改善開始（4月～）情報リテラシー（全クラス、主にB/II）において、初級レベルのデータサイエンス・AI教育を実施（ITパスポートへの対応） ② ITパスポート関連科目の改善開始（4月～） ③ 各学部の情報教育新カリキュラム案（科目・シラバス方向性・担当者）決定（9月頃） ④ 情報セキュリティマネジメント及び基本情報技術者試験への対応
	資格目標 ・ITパスポート合格者：40名 ・基本情報技術者試験もしくは情報セキュリティマネジメント試験合格：3名
2021年	① 情報教育新カリキュラムの開始（※経営学部は要AC期間対応） ② 応用情報技術者試験への対応 → ICT特別演習、資格講座
	資格目標 ・ITパスポート合格者：50名 ・基本情報技術者試験もしくは情報セキュリティマネジメント試験合格：10名 ・応用情報技術者試験合格：5名
2022年	① 情報教育新カリキュラムの部分的改善 ② 経営学部AC期間終了年度
	資格目標 ・ITパスポート合格者：50名 ・基本情報技術者試験もしくは情報セキュリティマネジメント試験合格：10名 ・応用情報技術者試験合格：5名

以上

2022 年度第 1 回情報教育運営会議議事録

日 時：2022 年 4 月 25 日（月）16 時～17 時 30 分

場 所：花岡キャンパス本部棟 2F 中会議室 1

出 席：呉原 志賢（座長、国際学部長、国際学部教授）、原辺 隆吉（顧問、学校法人大阪経済法律学園理事）、山木 和（情報科学センター長代理、経済学部教授）、津田博（経営学部教授）、中川 隆広（経営学部教授）、崔 舜星（IR 室長代理、教務部長補佐、経済学部准教授）、高田 恵一（教務課長、情報科学センター事務長）

1. 開会・前回議事録の確認

2021 年度第 5 回情報教育運営会議（2021 年 3 月 1 日（火）開催）議事録が了承された。

2. 2022 年度情報教育運営会議の目的及び構成員について

呉原座長から、資料に基づき、情報教育運営会議の目的についての報告があり、同会議において、各学部 DP で掲げる情報活用能力育成に向けて、AI 戦略 2019 を踏まえた数理・データサイエンス・AI 教育プログラムや、国家試験である IT パスポートに準拠した情報教育など、本学の情報教育の編成・実施、点検、評価、改善を担うこと、特に数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを改善・進化させるための取組みを行うとともに、同プログラムの自己点検・評価を行い、同プログラムの質保証に努めることが確認された。

続いて、2022 年度の情報教育運営会議の構成員について報告があり、確認された。

3. 事業計画達成に向けた今年度の取組について

呉原座長から、資料に基づき、事業計画達成に向けた今年度の取組について提案があった。提案において、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」に対応した「データサイエンス基礎」の具体的な授業内容が示された。また、国家資格である IT パスポート試験の合格者 100 名（中期目標）の実現に向けて、同試験に対応する講義科目、各対応演習等での個別指導、課外の資格講座等、2022 年度に合格者 50 名を実現するための具体的取組みが示された。くわえて、国家試験である基本情報技術者試験又は情報セキュリティマネジメント試験 10 名以上、応用情報技術者試験 5 名以上、民間試験の MOS（Microsoft Office Specialist）試験 500 名以上の合格の実現に向けて、対応科目の FD を進めることが提案された。種々意見交換の後、了承された。

4. 情報系科目の実施状況について

呉原座長から、資料に基づき、2022 年度情報系科目の実施状況について報告があった。報告において、履修ガイダンス及び指導に基づき、多くの学生が情報教育科目を履修していることが示され、各科目の位置づけや授業計画に基づいて適切に運営されるように、中間点検・評価及び総括を行うことが確認された。

5. 「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請について

崔准教授（IR 室長代理、教務部長補佐）より、資料に基づき、「数理・データサイエンス・AI 教育プログラム認定制度（リテラシーレベル）」の申請について報告があり、申請要領及び申請書類案が示された。引き続き、申請書類の作成・点検を行い、学内手続きを経て、期日（2022年5月20日（金）17時）までに申請できるように進めることが確認された。

以上

2022年4月25日
情報教育運営会議座長 呉原 志賢

2022年度情報教育運営会議の目的及び構成員について

1. 情報教育運営会議の目的

情報教育運営会議は、各学部 DP で掲げる情報活用能力育成に向けて、AI 戦略 2019 を踏まえた数理・データサイエンス・AI 教育プログラムや、国家試験である IT パスポートに準拠した情報教育など、本学の情報教育の編成・実施、点検、評価、改善を担う。

特に、数理・データサイエンス・AI 教育プログラムを改善・進化させるための取組みを行うとともに、同プログラムの自己点検・評価を行い、同プログラムの質保証に努める。

2. 2022年度情報教育運営会議の構成員について

呉原 志賢（座長、国際学部長、国際学部教授）

原辺 隆吉（顧問、学校法人大阪経済法律学園理事）

山木 和（情報科学センター長代理、経済学部教授）

津田 博（経営学部教授）

中川 隆広（経営学部教授）

崔 舜星（IR 室長代理、教務部長補佐、経済学部准教授）

高田 恵一（教務課長、情報科学センター事務長）

以上

【取組概要】大阪経済法科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム



＜プログラム概要と目的＞

- 数理・データサイエンス・AIは、Society 5.0の実現やSDGsを達成する上で必要となる「汎用的技能」であり、また、卒業後の仕事でも必要となる「就業力」といえる
- 学生の数理・データサイエンス・AIへの関心を高め、かつ、数理・データサイエンス・AIを適切に理解し、それを活用する基礎的な能力を育成することを目的とする
- 「データサイエンス基礎」(1科目・2単位)でプログラムを構成する
- 2022年度からは全1年生がプログラムを履修する(履修の必須科目)

＜学修成果＞

本プログラムが想定する学修成果(身につけられる能力)は、数理・データサイエンス・AI(リテラシーレベル)の修得(以下の項目)である

- ① 社会におけるデータ・AI利用に関連し、社会で起きている変化・社会で活用されているデータについて説明できる
- ② データ・AIの活用領域、利活用のための技術・現場・最新動向について説明できる
- ③ データリテラシーに関連し、データを読む・説明する・扱うことができる
- ④ データ・AIを扱う・データを守る上での留意事項について説明できる

＜プログラムの修了要件＞

- 「データサイエンス基礎」(2単位)の単位取得

「データサイエンス基礎」の位置付け

- 経済学部・経営学部・国際学部:各学部専門教育科目
- 法学部:共通教育科目
- 各学部1年生の履修必須の科目(履修を指定)

※令和3年度までの科目名称(旧名称)は「情報リテラシーⅡ」(2単位、経済学部・経営学部・国際学部の専門教育科目)、「情報リテラシーB」(2単位、法学部の共通教育科目)であり、令和4年度から「データサイエンス基礎」へ科目名称を変更した

＜プログラムの特徴＞



座学

(理論)

演習

(実データでの実践)



- 座学と演習(理論と実データ処理・分析による実践的理解)
- Society 5.0の実現やAI・データの社会で利活用の学修(学修意欲喚起)
- オンデマンド動画教材の提供(事前・事後学修の充実)
- SA(プログラム修了の先輩学生)の配置(学生目線でのサポート)
- アンケートの実施・分析(学生の理解度の把握・授業評価)
- 履修者分析・自己評価・点検の実施(学修成果の可視化と改善)

【その他補足資料】大阪経済法科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム：年次計画



- 令和4年度から全1年生が必ずプログラムを履修(履修を指定)
- 令和7年度には全学生がプログラムを履修
- 各年度でPDCAサイクルを回し、プログラム改善を実施
- アンケート実施等による
学生の主観的学修成果の把握
- 成績分析などによる
定量的な学修成果の把握

令和3年度

- 全学部へのプログラム提供開始
- プログラムを構成する各学部の科目「情報リテラシーⅡ/B」(旧科目名称)の一部クラスにてプログラム内容を実施
- 自己点検・評価とプログラム改善等
- 全学履修率10%

令和4年度

- 全学部全1年がプログラムの履修を開始
- プログラムを構成する科目名称を「データサイエンス基礎」(新科目名称)に変更
- 全学履修率35%
- 1年生全履修化の自己点検・評価とプログラム改善等

令和5年度

- 全学履修率60%
- 自己点検・評価とプログラム改善
- 高校情報I必修化世代の調査・新プログラムの検討
- 応用基礎プログラムの検討

令和6年度

- 全学履修率85%
- 自己点検・評価とプログラム改善
- 高校情報I必修化世代入学に向けた新プログラムの検討・準備
- 応用基礎プログラムの準備

令和7年度

- 全学履修率100%
- 令和3年度プログラム修了者の企業での状況調査
- 高校情報I必修化世代入学に合わせた新プログラムを開始

- 情報教育運営会議を中心とした自己点検・評価の実施
- 全学的応用基礎プログラムの検討・準備
- 高校情報I必修化世代入学に向けた新プログラムの検討・準備

【その他補足資料】大阪経済法科大学 数理・データサイエンス・AI教育プログラム：自己評価



＜プログラムを改善・進化させるための体制及び自己評価・点検の体制＞

- ・「情報教育運営会議」

＜情報教育運営会議 構成員＞

- ・ 座長 国際学部長 呉原志賢
- ・ 経済学部 教授 山木和
- ・ 経営学部 教授 津田博(実務家教員)
- ・ 経営学部 教授 中川隆広(実務家教員)
- ・ 経済学部 准教授 崔舜星
- ・ 教務課 課長 高田恵一

＜自己評価・点検のためのしくみ＞

- ・ 情報教育運営会議での自己点検・評価
- ・ 情報教育運営会議を中心とした報告書の作成
- ・ 本プログラムを含む、全学的な情報教育の報告・点検・評価：予算委員会、教務委員会、教授会、等

＜自己評価・点検項目(例)＞

- ・ プログラムの履修・修得状況
- ・ 学修成果
- ・ 学生アンケート等を通じた学生の内容の理解度
- ・ 学生アンケート等を通じた後輩等他の学生への推奨度
- ・ 全学的な履修者数、履修率向上に向けた計画の達成・進捗状況
- ・ 教育プログラム修了者の進路、活躍状況、企業等の評価
- ・ 産業界からの視点を含めた教育プログラム内容・手法等への意見
- ・ 数理・データサイエンス・AIを「学ぶ楽しさ」「学ぶことの意義」を理解させること
- ・ 内容・水準を維持・向上しつつ、より「分かりやすい」授業とすること